

オープニングノート

1. e4 編

antilles(twitter: @Antilles91)

2019/9/29

目次

はじめに	3
1 Caro-Kann, Advance, Tal Variation	4
1.1 序論	4
1.2 序盤の考え方	4
1.3 4... h6 の変化	7
1.4 4... Qb6 の変化	9
1.5 4... h5 の変化	11
2 French, Tarrach, Closed, Korchnoi Gambit	18
2.1 序論	18
2.2 12... Bc5 の変化	20
2.3 12... Be7 の変化	20
2.4 12... Qb4 の変化	21
2.5 Anti-Korchnoi Gambit	22
3 Sicilian, Najdorf, Scheveningen Formation	25
3.1 序論	25
3.2 局面のポイント	26
3.3 6. Be3 e6 7. f3 b5	29
3.4 6. Be3 e6 7. g4!?	31
3.5 6. Be3 e6 7. f3 b5 8. g4 に対する Kasparov 新手 8... Nfd7 の動向	33
3.6 10... Bb7 の成立可否	36
3.7 実戦例	37

はじめに

本書は、著者のブログに連載していた、チェスの序盤定跡に関する記事に大幅に加筆修正を行ったものです。

日本でチェスを指す際に常に問題になっていた (そして、現在でも決して解決されているとはいえない) ことは、日本語による情報の少なさでした。近年でこそ、Fischer の My 60 memorable games の和訳など、中級者、上級者向けの本が公刊され始めていますが、それまではチェス書籍といえば入門書ばかり、といった状況にありました。このような、「入門書を読み終えたプレーヤーが日本でチェスを勉強するには英語が必須」といわれる状況は、チェスの普及にとって、好ましい状況とはいえないと考えています。私も一介のチェスプレーヤーとして、日本のチェス人口がもっと増えてほしい、と夙に願っています。そのためにできることとして、私はブログにおいて大会のレポートや序盤の紹介を行ってきました。日本でチェスを続けていきたい、もっと勉強したいと思う方のために、少しでも情報発信を行いたいと思い、ブログで情報発信を続けてきました。

ここに、ブログで書いてきた記事のうち、序盤定跡に関する記事を切り出し、加筆修正して pdf の形でまとめて読めるように編集しなおします。ブログの形式であると複数の記事に分かれることによる読みにくさもあったため、読みやすさ・見やすさを優先して編集を行います。

チェスの序盤、そして序盤研究は非常に面白い分野です。コンピュータ、そしてチェスソフトが発展した現代にあっても、その面白さは減っていないと思っています。序盤のわずかな形の違いが、中盤でのプランの違い、そして終盤での勝敗の違いにつながることも決して少なくはないでしょう。そのようなわずかな形の違いに気づくこと、その違いが何を意味するのかを考えることは、極めて論理的な作業であるとともに創造的な作業でもあります。

序盤研究はコンピュータ、およびデータベースを使うことが一般的になっています。しかし、序盤を研究することは、決して手順を暗記することではありません。なぜコンピュータがその手順を最善としているのか、なぜスーパーグランドマスターがその手を指すのか、といった意味を知る必要があります。そしてその意味は、定跡ごとの狙いと、手順による形の違いを知り、そこからのお互いが可能なプランの違いを考えることにより、局面が教えてくれるものです。

本書では、1. e4 に対する黒の代表的な応答 (1... c6, 1... e6, 1... c5, 1... e5, その他) を取り上げます。本書は、分岐する序盤全てを取り扱うわけではなく、いわゆる「オープニングツリー」を作ることが本書の目的ではありません。そうではなく、序盤を研究する中で何をポイントにして研究するか、を説明する例として、いくつかの定跡を取り上げていると考えてほしいと思います。序盤定跡のレパートリーを見直す際の考え方の一助となれば幸いです。

本書は、一通り駒の動かし方や簡単なタクティクスについてすでに学び、対人戦においても何度か勝つことができるようになったレベルのプレーヤーから、FIDE レーティング 1700 前後のプレーヤーまでを想定読者としています。もし、本書の中でわからない単語があった場合には、以下のページが参考になるでしょう。

チェス用語小辞典 (英和)

<http://hnishy.la.coocan.jp/chessterms.htm>

2019 年 5 月

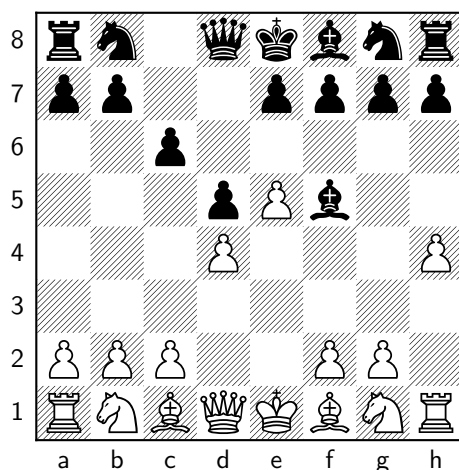
antilles

1 Caro-Kann, Advance, Tal Variation

1.1 序論

Caro-Kann Defense(1. e4 c6) は、非常にソリッドなオープニングとして知られています。1... c6 は駒展開には影響しない手ですが、その代わり d5 の地点を非常にしっかりと抑えることができます。また、French Defense(1... e6) と違い、c8 のビショップの展開を妨げていないため、c8 のビショップを f5 や g4 に出してから...e6 と指すことで、c8 のビショップがポーンの内側に閉じ込められることを防ぎます。

Caro-Kann に対する白の手段はいくつかありますが、近年流行しているのが Advance Variation(1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5) です。センターからキングサイドにかけてのスペースの広さを主張する手です。これに対しては黒は 3... Bf5 と、ビショップを出すのが一般的です。この手に対して、4. h4!? とする手を Tal Variation と呼びます。



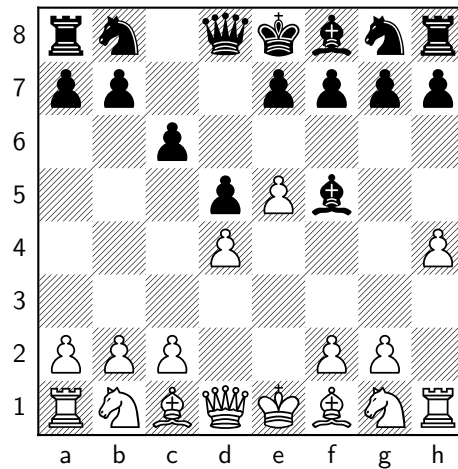
4. h4!?まで

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4!?

このオープニングは、Tal が 1961 年の世界選手権で、Botvinnik に対して連採したことで知られているオープニングです。その時にはあまり効果を挙げることはなく終わりました。しかし、それと同時に、また別の世界選手権でも非常に大きな役割を果たしたオープニングでもあります。2004 年の Kramnik 対 Leko の世界選手権、最終 14R、勝たなければ世界チャンピオンの称号を失うゲームで Kramnik が選んだのが、このオープニングでした。彼はこのゲームで 6 手目に新手を指し、そのまま勝利しています。

1.2 序盤の考え方

まず、4. h4 はどのような狙いを持った手かを考えます。



(再掲)4. h4!?まで

チェスは将棋と違って、序盤でルークの先のポーンを伸ばしていくことは非常に珍しいです。それよりもセンターを支配することが重要、とはよく言われることです。

この局面でも、センターの重要な d4, e5 マスに効きを増やす 4. Nf3 は、非常に自然な手です。それに比べると 4. h4 は不自然な手にも見えます。

それではなぜ、4. h4 が指されるのでしょうか？

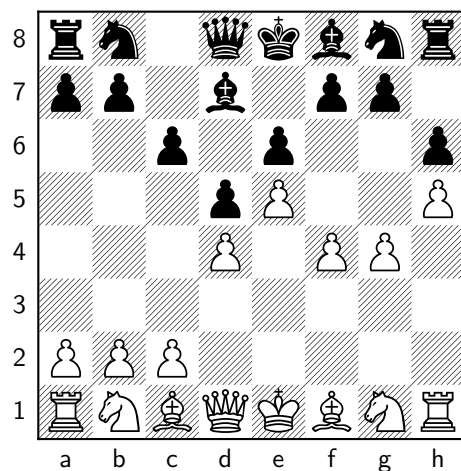
a. キングサイドにスペースを確保するもっとも直接的な手である

スペースアドバンテージという概念があります。自由に使えるマスの多さ、とも言い換えることができるかと思いますが、自分がピースをその中で自由に動かせる空間が多いというアドバンテージです。

よく言われるのは伸ばしたポーンの内側ですが、それに限らずピースの効きによって相手がピースを置けないマスも自分のスペースと考えることもできます。

少し変化を進めてみましょう。

4... h6 5. g4 Bd7 6. h5 e6 7. f4 (Caruana-L'Ami, 2013)



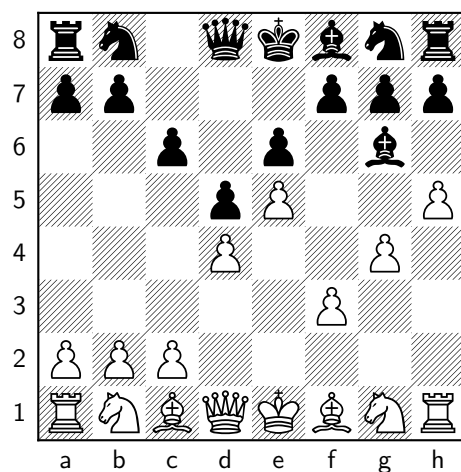
白のキングサイドは、白が好きに駒を配置できます。例えば、Ne2-Ng3-Qf3-Bg2-O-O として f5 から強くポーンを押していくこともできるかもしれません。一方黒はどうでしょうか。g8 のナイトが動ける先は e7 のみ、d7 のビショップは今現在 c8 にしか戻れず、クイーンも相当動きが制限されています。

このように好きに駒を配備できてプランの選択が可能、というのがスペースアドバンテージの利点です。4. h4 は次にキングサイドでスペースを確保するという積極的なプランの元にもなっています。

b. キングサイドでタクティカルなチャンスを生める、あるいは黒のポーン形を崩せる

Caro-Kann プレーヤーなら、一度はこのゲームを指したことがあるか、あるいは少なくとも見たことがあると思います。

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 e6?? 5. g4 Be4 6. f3 Bg6 7. h5



4 手目が他の手であれば、4... e6 は好手なので、ついうっかりしがちです。

そうでなくとも、f5 や g6 のビショップをナイトなどによりアタックされることもあります。黒が最もドラ

スティックに白のキングサイドでの攻勢を防ぐプランは 4... h5 ですが、今度は h5 のポーンが攻撃対象になり、g5 のマスは白が好きに使える可能性が増します。

白は黒に「キングサイドを若干弱める」か「自由に白にキングサイドのスペースを取らせてキングサイドでのタクティクスのチャンスを作らせる」か、あるいは「手損する」(f5 に出たビショップを d7 に引く展開もあります) を選ばせることができます。

このように、4. h4 には良い点がいくつかありますが、もちろん悪い点もあります。黒にセンターからのカウンターを許すこと、伸ばしたキングサイドのポーンがターゲットになること、などです。

このように、どちらにも異なった主張があるため、非常にエキサイティングなゲームになります。

4. h4 に対する黒の主な受け方は、4...h5、4...h6、4... c5、4... Qb6 などがあります。どれも一局ですが、それぞれ全く違った局面になるので、面白いところです。

1.3 4... h6 の変化

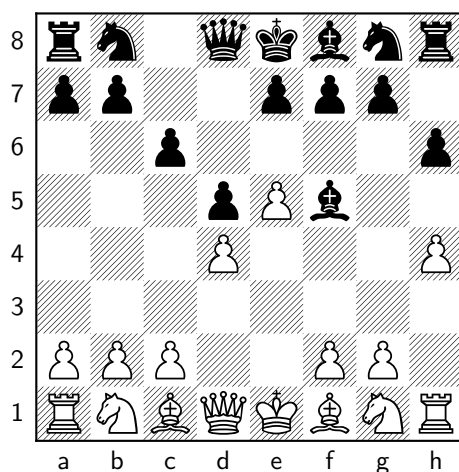
序盤定跡を学ぶときには、相手が最善の手、あるいは最もクリティカルな手を指さなかった場合に自分がどう指すと優勢になるか、を知ることが大事です。メインラインだけを抑えるのは良くないと言われる所以でもあります。

その時に重要になるのが、序盤定跡における thematic なプランです。この定跡形ではこの手を狙う、この手を指せば満足、という手を知っていると、「その手を指せるかどうか」という観点で局面を見ることが出来るため、手の選択にも悩まなくなり、定跡から外れた際の指し方の指針にもなります。

Tal Variation 4. h4 の変化で最もクリティカルな手は 4... h5 と思いますが、それ以外の手に対してはどのように対応していくか、これから見ていきたいと思います。

まずは 4... h6 です。

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 h6



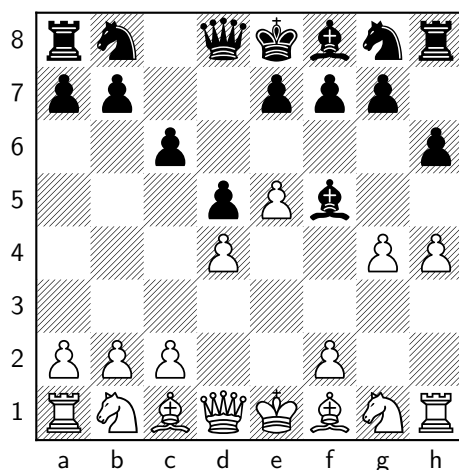
手の狙いを考える時には、「もし自分が1手パスしたら相手は何を指すか」を考えることが大事です。この局面、もし白が1手パスするならば、黒は5... e6を指すでしょう。

5... e6後は、6. g4とされても形よく6... Bh7と引くことができます。「バッドビショップはポーンチェーンの外側に」と言われますが、まさにそのような形になっています。

とすれば、白は 5...e6 を許さないような手を指せば、黒のプランを崩すことができます。

それが 5. g4! です。

5. g4



さて、黒はビショップがアタックされている以上、逃げなければなりません。最も自然な手は 5... Bh7 ですが、成立するでしょうか？

1.3.1 4... h6 5. g4 Bh7

5. g4 Bh7?! 6. e6!

この定跡は黒のキングサイドのポーン形を崩すことが一つのテーマになります。そのため、この e6 突きは非常に強力です。

6... fxe6 7. Bd3 Bxd3 8. Qxd3

白は、黒の弱い g6, e6 マスを攻めたいため、黒の白マスビショップを交換して消してしまいます。

8... Qd6 9. f4 Nd7 10. Nf3 O-O-O 11. Ne5 Nxe5 12. fxe5 Qd7 13. h5

自然に進めるとこのようになります。白のキングサイドのスペースとピースの動かしやすさ、黒のポーン得という構図になりますが、やはり黒のキングサイドが硬直するのが大きく、この局面は白が良いと思います。

これを避けるために、黒は 10... e5! としてポーンを返すのが面白いでしょう。しかし、それでもやはりキングサイドのスペースは大きく、白が良いと思います。

1.3.2 4... h6 5. g4 Bd7

4... h6 5. g4 Bd7

5... Bd7 と、こちらに引くのが良いとされています。これは手損であり、Caro-Kann のテーマである、白マスビショップをポーンチェーンの外に出してからセンターに反撃するというプランとも一貫していないように見えますが、白のキングサイドのポーン突きを緩手にする (攻撃対象をキングサイドから退避させることで、白の Ph4-Pg4 がキングサイドを弱めただけの手にさせる) という狙いがあります。

さらに、黒はここから e6-c5 と指せばフレンチのポーン形になるので、ポーン形は全く問題がありません。

白にはここからいくつか手があるのですが、一つ面白いプランを紹介します。黒が、「e6-c5 を指したい」と

いうプランを持っていることに目を付け、このプランを阻止するように指します。

6. Nd2!

Kramnik-Leko(2004) の新手であり、第 1 回で紹介した、世界選手権最終ラウンドのゲームの手でもあります。

この手には、次に 7. Nb3 として黒からの...c5 を防ぐ狙いがあります。

6... c5

それでも突いてしまいます。他にも 6... Qc8 などありますが、白のプランは同じです。最終的には Nb3 を狙い、黒の...c5 に対して対処します。

7. dxc5 e6 8. Nb3

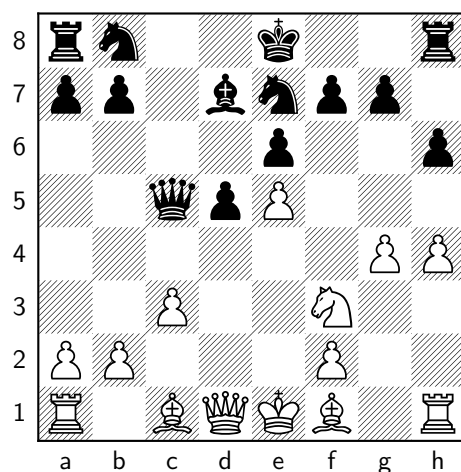
これで白はポーン得を守れるように見えますが、

8... Bxc5! 9. Nxc5 Qa5+ 10. c3 Qxc5

これでポーンを取り返せます。

11. Nf3 Ne7

11... Qc7 もありますが、黒はバッドビショップである白マスビショップを解消することが課題になります。



この局面をどう評価するかですが、黒のポーンストラクチャーはコンパクトで好形ですがバッドビショップを持っています。一方白もダブルビショップを持っていますが、キングサイドのポーン形が崩れています。アグレッシブなプレーを好むプレーヤーは白を、ソリッドなプレーヤーは黒を持ちたいと考える局面と思います。

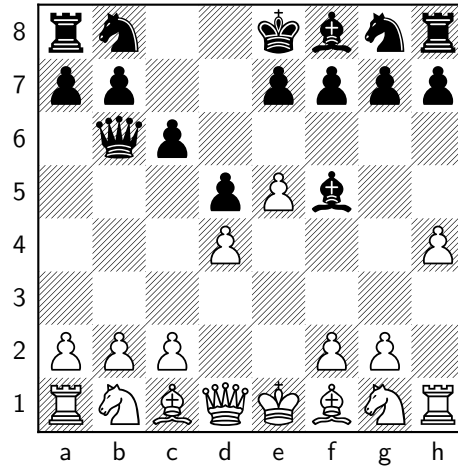
この後ですが、12. Nd4 が強いように感じます。黒はバッドビショップを解消するために...Bb5 からのビショップ交換が一つの狙いになるため、b5 マスを抑えてしまう狙いの手です。実戦例は 12. Bd3 か 12. h5 ですが、例えば 12. Nd4 Nbc6 13. Nb3 Qb6 14. Be3 Qc7 15. f4 と進めて、センターの黒マスを支配すれば白は指しやすいように思います。

1.4 4... Qb6 の変化

4... Qb6 は一種の手待ちであり、キングサイドを 4... h5 や 4... h6 で弱めずに、白の g4 突きに対して Bd7 に引くため、e ポーンも h ポーンも動かさない、という手です。

加えて、白の d4 ポーンに若干の圧力をかけた上で、...c5 を準備しています。

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 Qb6



白にはいくつかの手がありますが、もっとも直接的な 5. g4 には 5... Bd7 と引いておいて、黒はフレンチ風に戦えます。ここで d ポーンが当たっているために Kramnik の 6. Nd2 が指せないのがポイント (6. Nd2?? Qxd4 -+) です。

また、5. a4 も面白い手ですが、そのような手があることの紹介にとどめ、深くは追いません。

5. Nc3

おそらく 4... Qb6 に対して最も効果的なのはこの手です。直接的には 5... c5 を防ぐ意味があります (5... c5?? 6. Nxd5) が、黒は白マスビショップ問題を何とかしないと e ポーンを突けないため、c5 を突くことができません。

5... h5

結局黒は、h ポーンを突くことになりました。それでは、4... h5 と同じ変化になるのではないかと思う向きもあるとは思いますが、一つ大きな違いがあります。

次回紹介しますが、4... h5 に対しては 5. c4 から 6. Nc3 と、「Pc4-Nc3 型」を作るのが白としては効果的です。しかし、この手順では 5. Nc3 と先に跳ねているため、「Pc2-Nc3 型」を白は強いられています。

このことにより、黒はやや c5 を突きやすくなっていると言えるでしょう。

6. Nge2

次回詳しく紹介しますが、この手は Ng3 から Be2 として、h5 をターゲットにしていく狙いがあります。黒の 4... Qb6 のおかげで、白は h4 をターゲットにされにくい形になっています。

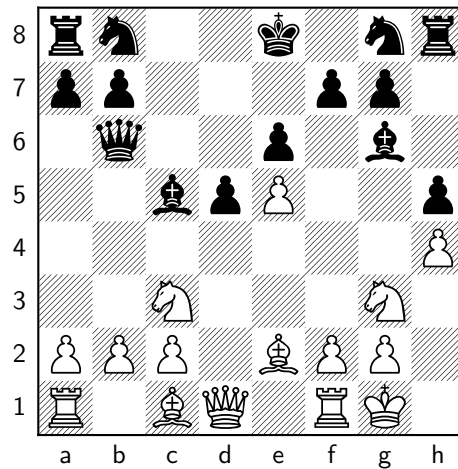
6... e6 7. Ng3 Bg6 8. Be2 c5

お互いに、白は h5 をターゲットにする、黒は...c5 からセンターをブレイクするという、当初の目的を達成したことになります。

9. dxc5

f8 のビショップが動いていないときのこのような手はフレンチやカロカンではあまり好ましくはないですが、仕方ありません。

9... Bxc5 10. O-O



ひと段落しました。黒は h5 のポーンを除いては大きな弱点がなく、ビショップも活動的です。白は e5, b2, h4 のポーンがターゲットになりやすい陣形ですが、ナイトがセンターに効いており次に Na4 の狙いもあります。ダイナミックなチャンスは白にありますが、ポジションとしては黒十分でしょう。ここから、白がどうやって手を作っていくか、白が考える必要があります。

10... Be7

Na4 の狙いを受けつつ、h4 のポーンに狙いをつける自然な手です。

11. Nb5!

c7 と d6 を睨むことで、黒に 11... Bxh4 と指しづらくする手です。

11... a6 12. Be3 Qd8 13. Nd4

やはり d4 が好位置です。何かの拍子に e6 にサクリファイスすることも視野に入られます。

この後は、Tindall - Smith (2002, Oceania Zonal Tournament) の進行をなぞります。

13... Bxh4 14. Nxh5 Bxh5 15. Bxh5 Qd7

白に Nxe6 の狙いがありました。

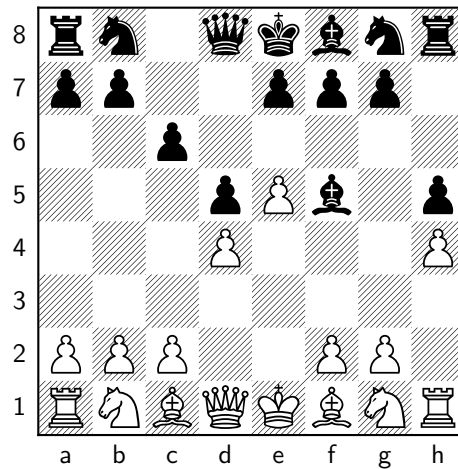
16. g3 Bd8 17. f4 g6 18. Bf3 =

この局面はもろもろの要素を考えて、白がやや良し (序盤のアドバンテージを失っていないくらい) と考えられます。

4... Qb6 は、いったん別の手を白に指させたのちメインラインに近い形に戻すことで、変化を限定しているという意味で面白い手であると思います。

1.5 4... h5 の変化

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 h5



黒は白のキングサイドの拡張を止めるために、若干キングサイドを弱めます。今まで他の手を見てきたときに、白の狙いの一つは g4 突きであるということを強調してきましたが、この手はもっとも直接的に 5. g4 を防いでいます。

白は、黒の h5 のポーンをターゲットにして指していきたいところです。そのためにナイトの動きとして、Ne2-Ng3 を考えます。このナイトの動きは Tal Variation の白番に特有の動きであり、この形から h5 を取ることを狙いにして指していくことになります。

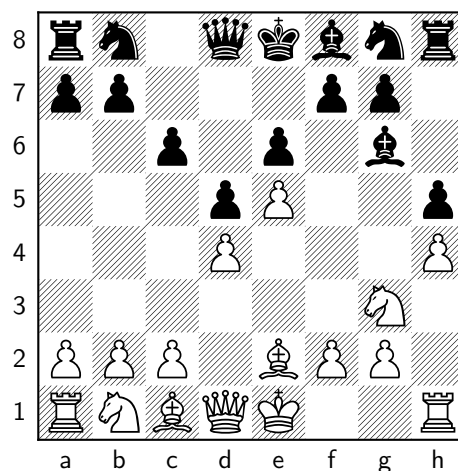
メインラインは 5. c4 ですが、その前に直接白が h5 のポーンを取りに行くとうなるかを見てみます。

1.5.1 4... h5 5. Ne2

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 h5 5. Ne2!?

狙いはシンプルに、Ng3-Be2 として h5 のポーンを取りに行くことです。黒は Nf6 とできないため、h5 の数がどうしても足りず、白がポーン得するか、Bh7-Pg6 型を強要できるように見えますが……

5... e6 6. Ng3 Bg6 7. Be2



黒の反撃は？

7... c5!

いかにも Caro-Kann らしい反撃で、サイドからの攻撃に対してはセンターで反撃すべし、という原則にも従っています。手を進めてみます。

8. c3 Nc6 9. Be3 Qb6 10. Qb3 c4 11. Qxb6 axb6

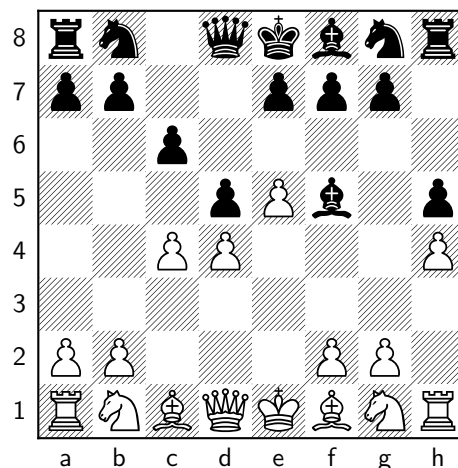
対ロンドンの黒番定跡や、フレンチの黒番定跡になじみ深いプランで、黒が有利です。この後は b5-b4 を狙っていきます。

このような反撃があるため、白の狙いとして、キングサイドを狙っていく前にセンターを固定することが有効です。

1.5.2 4... h5 5. c4

5. Ne2 から h5 のポーンをいきなりアタックすると失敗するので、白はまずはセンターを固定化する必要があります。こう見ていくと、メインラインの 5. c4 の一つの狙いが見えてきます。

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 h5 5. c4



この手は 6. cxd5 cxd5 として黒からの...c5 反撃を防ぎつつ、キングサイドで圧力をかけていく狙いがあります。

5... e6

最も自然な手です。

6. Nc3

黒の d5 ポーンに圧力をかけながら...Bxb1 としてバッドビショップを解消される手を事前に受けます。

ここで黒は手が広く、6... Ne7、6... Nd7、6... Be7、6... dxc4 などが指されています。「白は cxd5 に対して黒に cxd5 と取り返させるのが狙い」ということを抑えていると、このあたりの黒の指し手の指針となるでしょう。

■1.5.2.1 6... Nd7

6... Nd7 は非常に Caro-Kann らしく自然な手ですが、この場合に限っては白に好手段があります。とはいえその手はすでに予告していますが。

7. cxd5!

センターの緊張を解消する手ですが、白は f5 のビショップや h5 のポーンをターゲットにしてキングサイドで手を作れるため、手に困ることがありません。

7... cxd5

...c5 の狙いを残す 7... exd5 は、8. Bd3 Bxd3 9. Qxd3 から Nf3-Bg5-Pe6 などの組み合わせで、黒のキングサイドが修復できないほどダメージを受けます。

8. Bg5

8. Nge2 から Ng3-Be2 を狙う手はまだ成立しません。詳細は省きますが、黒が Ne7-Nc6-Ndxe5 とする反撃があり、黒がセンターを逆に支配します。

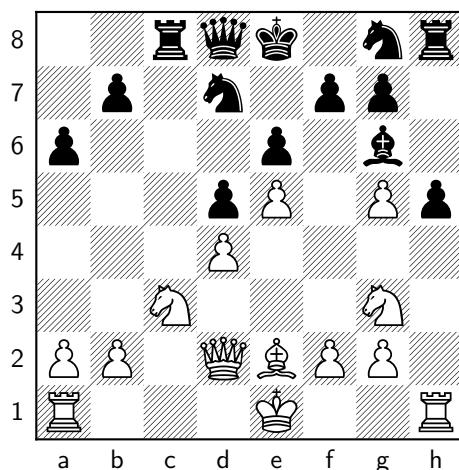
8... Be7 9. Qd2 a6

こうやって e7 をビショップで埋めさせた後に、

10. Nge2!

ようやく当初のプランを実行します。

10... Rc8 11. Ng3 Bg6 12. Be2 Bxg5 13. hxg5

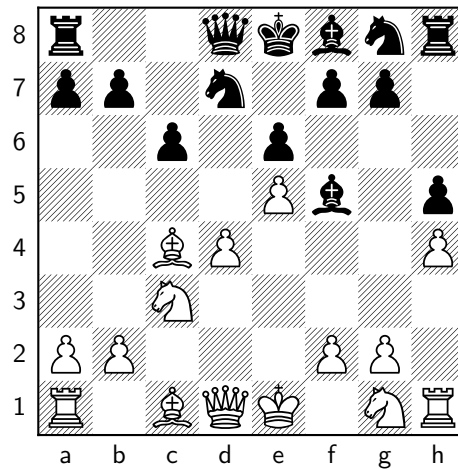


この局面は、キングサイドの圧力の強さと、ビショップの働きの差で先手が指しやすいでしょう。

■1.5.2.2 6... dxc4

黒からセンターの緊張を解消する手で、白の d4 ポーンをバックワードポーンにしてターゲットにするという意味もあります。その代わり、白は相手の手に乗って展開ができます。

6... cxd4 7. Bxc4 Nd7



前回の 6... Nd7 と、今回の 7... Nd7 の違いは明白です。前回は白から cxd5 と取られると、黒からの...c5 が不可能になりました。今回は、先にセンターを解消しているため、黒からの...c5 がオプションとして残ります。

8. Nge2 Nb6 9. Bb3 Be7 10.Ng3 Bg6

4. h4 のもう一つのポイントは、g5 マスを白が使いやすくなることです。9... Be7 は、g5 マスを抑えつつ、h4 のポーンにも狙いを付けています。

11. Nge4

黒が h4 のポーンを取ると、Nd6+ が非常に厳しいです。4. h4 の形のもう一つのポイントで、Ng3-Ne4-Nd6 というルートを見せることで黒の駒組みを制限します。

11... Nh6 12. Bxh6 Rxh6 13. Qd2

この局面は、黒も十分やれるという評価をされているようです。

代えて 10. g3! が白としては別プランです。

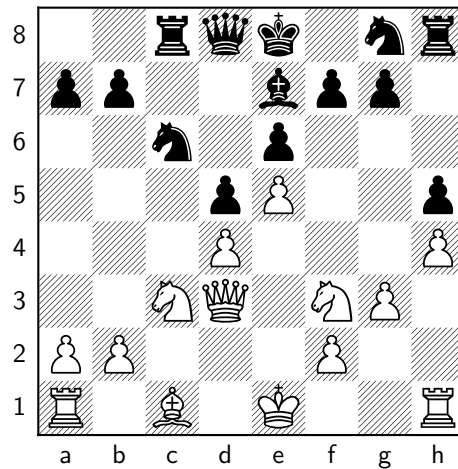
■1.5.2.3 6... Be7

この手は白の h4 にプレッシャーをかけつつ g5 を抑える狙いです。

6... Be7 7. cxd5 cxd5

白はこれで満足なように見えますが、h4 がアタックされているのでうまく Nge2-Ng3 ができません。

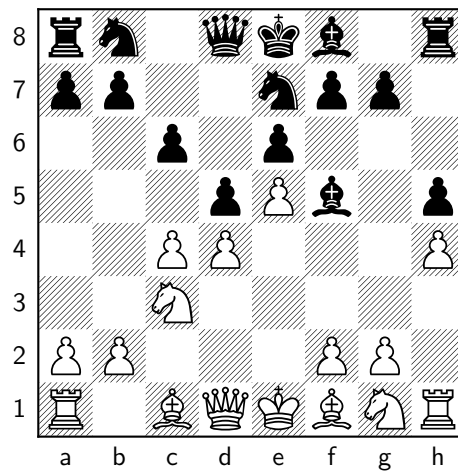
8. Bd3 Bxd3 9. Qxd3 Nc6 10. Nf3 Rc8 11. g3



お互いに相手の狙いを受けることで、より穏やかな局面になります。チャンスは互角と思います。

■1.5.2.4 6... Ne7

1. e4 c6 2. d4 d5 3. e5 Bf5 4. h4 h5 5. c4 e6 6. Nc3 Ne7



この手は非常に強力です。白から 7. cxd5 としてセンターを固めてしまう手を防ぐとともに、f5 に飛ぶ手を見せます。

ここから白はいろいろなプランがありますが、7. cxd5 は 7... Nxd5! で互角になります。また、7. Bg5 もあります。

最近流行りなのは 7. Nge2 なので、この手を見ていきましょう。

1.5.2.4.1 7. Nge2 dxc4

7. Nge2 dxc4

一旦 c ポーンが浮くので、この手もあります。

8. Ng3 b5

7... dxc4 と指したからには当然ポーンを守りたいところです。この時 9. Nxf5? に対して 9... Nxf5! と形よ

く取れるのも、6... Ne7 の効用です。

9. Bg5 Qa5

4... h5 の一つの欠点としては、g5 のコントロールが弱くなることです。そのため、9. Bg5 として g5 マスを使いに行くことが有効になります。9... Qa5 はビショップのピンを外しつつ c3 のナイトの動きに制限をかける手ですが、

10. a4! b4 11. Nce4 Bxe4 12. Nxe4 Nf5!

何回かテーマになっていた、d6 へのナイトの飛び込みも、これで防げます。

13. Bxc4 +=

ポーンを取り返し、やや白が良いでしょう。黒は 9... Qa5 に代えて、9... Qb6 や 9... Qd7などを模索する必要があると思います。

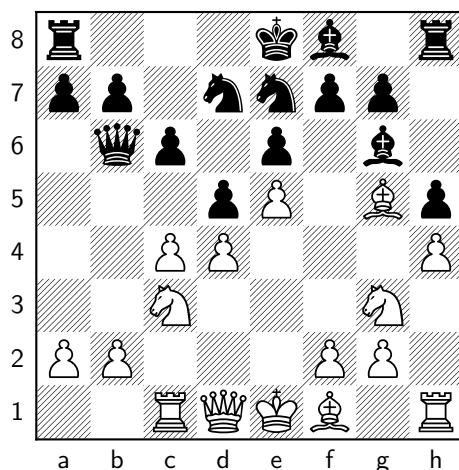
1.5.2.4.2 7. Nge2 Nd7

白の cxd5 が効果的ではないようにしてから、...Nd7 から...c5 を決行する狙いです。

7. Nge2 Nd7 8. Ng3 Bg6 9. Bg5

やはり、このピンは強力です。

9... Qb6 10. Rc1!?



b2 を狙う黒の 9 手目に対し、d2 に上がって受ける 10. Qd2 もありましたが、その後の展開は黒良しとされています。代えて、Sutovsky による 10. Rc1! が調べられています。

ポイントは、いったん c3 のナイトを守ることで、10... Qxb2 に対しては 11. Bd3 とするテンポを稼ぎ、Rb1 を狙いに指していくことです。

一例として 10... Qxb2 11. Bd3 dxc4 12. Bxg6! Nxe6 13. O-O Qa3 14. Nxe5 のように進み、白はギャンビットしたポーン分の代償がある局面でしょう。この局面はまだそこまで研究が進んでおらず、b2 のポーンを取れるのか、取れないとしたら白が良いのか、は難しい局面と思います。

2 French, Tarrach, Closed, Korchnoi Gambit

2.1 序論

French Defence(1. e4 e6) も、1. e4 に対する対策として人気があるオープニングです。特に、2019 年現在日本のプレーヤーの間では非常に流行している印象です。手堅い形を作れること、それでいながらポジショナルにもタクティカルにも黒から手を作っていけることなどが人気の理由でしょうか。

さて、ここで紹介する Korchnoi Gambit は French Defence に対して白番が採用する定跡です。名前の由来である GM Korchnoi は黒番で French を採用していたことで有名です。世界選手権にも 2 度登場した強豪中の強豪です。French Defence の大家が見せる French 破りを紹介します。

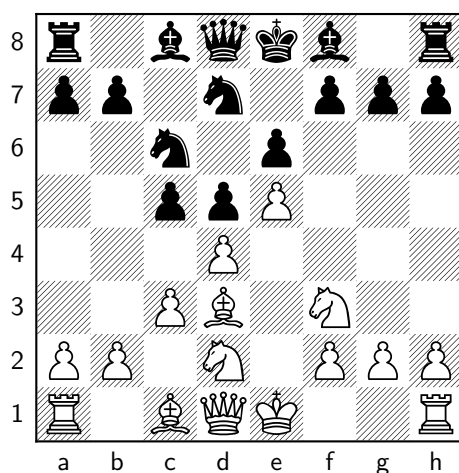
1.e4 e5 2. d4 d5 3. Nd2

Tarrasch Defence です。黒の対応としては 3... c5 (Tarrasch Open) と 3... Nf6 (Tarrasch Closed) に分かります。個人的な印象ですが Closed のほうが French っぽいポーンストラクチャーになるのでよく見る気がします。

3... Nf6 4. e5 Nfd7 5. Bd3 c5 6. c3 Nc6

このあたりは定跡です。Closed Tarrasch は Bd3 のラインで使います。

7. Ngf3!?



この手が Korchnoi Gambit に入るために必要な手です。Main Line は 7. Ne2 です。7. Ne2 cxd4 8. cxd4 f6 9. Nf4! というラインも激しいことで有名です。

一見自然な手ですが、黒には次の手があります。

7... Qb6

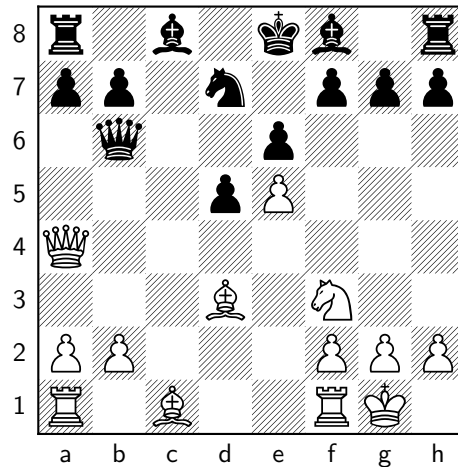
これでポーンダウンを避けるためには白は 8. Qa4 か 8. dxc5 という手しかなく、主導権を黒に握られることになりそうです。そのため、以下のようにポーンを捨てます。

8. O-O cxd4 9. cxd4 Nxd4 10. Nxd4 Qxd4

一見白が大変まずそうな局面ですが、白には次の手があります。

11. Nf3 Qb6 12. Qa4!

11. Nf3 で、e5 のポーンと d3 のビショップが同時に守れます。黒クイーンの退却に対し、12. Qa4!と指します。このあたりが Korchnoi Gambit の基本形だと思います。



この局面、黒の利点は明確で、ポーン、それもセンターポーンが白より 1 つ多いです。このまま駒交換が進めば d ポーンもプロテクテッドパスポーンになりそうです。これは中盤-終盤では明確なメリットとなります。一方欠点としては駒展開が若干遅れていることがありそうです。12... Nc5 とは指せませんね。

白の利点・欠点は黒の逆で、駒展開は進んでいるが駒損しています。

この後、白の方針としては Qg4 からキングサイドアタックを狙います。キングサイドアタックは以下の戦略に基づくはずで。

- 黒は黒マスビショップを展開しないとイケない。
- 黒が黒マスビショップを展開すると、g7 ポーンが浮くため攻撃対象になる。
- 白のクイーンが g4 にいても、黒は Nf6 とは飛べず、ポーンチェーンで白マスビショップのラインが閉じているためクイーンに対するアタックを受けない。
- French の常套手段である、黒 Pf6 からセンターポーンを清算するラインはキングの斜めのラインが開くため、このラインの白 Qg4 の後では成立しないことが多い。
- f7 ポーンをプロテクトすることが難しい。ナイト・白マスビショップではすぐに守れず、当然黒マスビショップでも守れない。
- c ファイルが素通しのため、キングサイドアタックを受けた際にクイーンサイドに逃げ込めなくなる可能性がある (Rac1 が決め手になることがある)

そのため、黒のディフェンスは、白 Qg4 を防ぐことを主眼に考える必要があるはずで。

データベースを見ると、主に黒のディフェンスは 3 通りあるようです。

- 12... Bc5
- 12... Be7
- 12... Qb4

Main Line は 12... Qb4 で、有力な Side Line は 12... Be7 らしいですが、まず 12... Bc5 を見てみようと思

います。

2.2 12... Bc5 の変化

一見自然な 12... Bc5 ですが黒は正確に受けないといけなくなります。変化を見てみます。

12... Bc5 に対しては、13. Qg4! が相当大変な手です。受け方は主に 2 通りで、13... Kf8 と 13... g6 があります。

2.2.1 12... Bc5 13. Qg4! Kf8

13... Kf8 に対しては、14. Bd2!? が面白い手。2 つめのポーンを黒に献上する手ですが、14... Qxb2?! には 15. Qf4! として次の Ng5 が破壊的です。例を挙げると 15. Qf4 Qb6 16. Ng5 Nxe5 17. Qxe5 f6 18. Qg3 fxg5 19. Bxg5 Qd6 20. Be3(d4 を突かせて Be4 を作る) のような感じで攻めが続きます。

キングサイドを守る手、例えば 14... Be7 等であれば 15. b4 として c5 にビースを置かせないようにしてからルークを c ファイルに回して c ファイルを抑えてしまえば互角-やや指しやすい形勢と思います。

2.2.2 12... Bc5 13. Qg4! g6

13... g6 に対しては、黒マスの弱点を突く 14. Bh6! があります。やはり 14... Qxb2 には 15. Rab1! として、15... Qxa2?! と 3 つめのポーンを取られたら 16. Ng5 とします。キングサイドを守る 16... Be7 には 17. Bb5 として攻撃が続きます。黒ナイトがピンされているので Nxe6-Qxe6 が効きやすいのがポイント。

15... Qa3 のほうがよく、16. Bb5 a6 17. Bxd7 Bxd7 18. Rxb7 となります。

14... Bf8 が本線ですが、15. Qf4 Qb4 16. Qc1 Qc5 17. Bxf8 Qxc1 18. Raxc1 Kxf8 19. Rc7 として駒の効率で十分ポーン損の代償は取れているでしょう。

2.3 12... Be7 の変化

主観ではこの変化が実戦で一番よく出会うように感じます。ここでも 13. Qg4! は有力だと思っています。

基本的には 13... g6 14. h4 と進むことが多いです。この後白はキングサイドアタックを仕掛けていき、黒はそれを受けるという展開になります。ちなみに黒としては、キングサイドアタックを避けるために 14... Nc5 15. Bc2 Bd7 16. Rd1 O-O-O とするのは若干急ぎすぎで、白は Rb1-Be3-Qf4-Ng5 のようにしてキングサイドでポーンを取り返せます。

13... g6 14. h4 のあと、黒としてのプランはいくつかあります。

1. キングサイドにキャスリングし、正面から白の攻めを受け切る。
2. クイーンサイドにキャスリングし、キングサイドは軽く流す。
3. クイーンを交換して白のアタックを緩和する。

1. は例えば 14... O-O? であれば 15. h5! Qb4 16. Qg3 等で白十分。

2. を実現するためには白マスビショップを動かす必要があり、そのためにはナイトを動かす必要があります。そのため 14... Nf8 と 14... Nc5 等が考えられます。

3. は 14... Qb4 です。

2.3.1 12... Be7 13. Qg4 g6 14. h4 Nf8

黒マスを弱くするやや危険な手で、15. Bg5!と黒のグッドビショップを交換しに行く手があります。この手に対して 15... Bc5?は 16. Rac1 h6 17. Bf6 Rg8 18. Qf4!とします。ここで黒がポーンを守る 18... h5?に対しては、19. Rxc5!!が成立します。19... Qxc5 20. Rc1 Qb6 21. Ng5!として次の Nxf7 から Bd8(ディスカバードチェック)、Bxb6 を狙っていけば白はつきり良し。

そのため、18... Bd7 くらいですが、19. Qxh6 として白十分でしょう。

15. Bg5 に対して 15... Qb4 であれば 16. Qxb4 Bxb4 17. Bf6 Rg8 18. Rac1 として、c ファイルを支配しておけば白十分。

2.3.2 12... Be7 13. Qg4 g6 14. h4 Nc5

この手は自然な手に見えますが、黒としてはしばらく Qb4 を指せなくなるというデメリットがあります。Korchnoi Gambit において黒の Qb4 は白のプレッシャーを解消する最良の手段なので、ひとつプレッシャーを解消するオプションを無くしてしまったということになります。

例えば、この後 15. Bc2 Bd7 16. Rd1 O-O-O!? 17. Rb1 Bc6? 18. b4!のように進み、b4 のマスをしっかりと抑えられます。17... Bb5!?!が正しく、18. b4! Na4 19. Be3 のように進みます。黒クイーンとキングがアタックを受けやすく、実践的には危険でしょう。

2.3.3 12... Be7 13. Qg4 g6 14. h4 Qb4

Korchnoi Gambit の refutation としては、やはりどこかのタイミングで黒 Qb4 を指すことに軍配が上がるでしょう。(しかし、知らないとい指せない手でもあります。) この後は例えば 15. Qg3 Nc5(コンピュータは 15. Qxb4 Bxb4 を推奨しますが、白の一貫したプランが見えません。) 16. Bd2!?!のように進むでしょう(ちなみにうっかり 16... Qxb2 は 17. Rfb1! Qa3?? 18. Bb5+! Bd7 19. Bb4 Ne4 20. Bxd7+! Kxd7 21. Bxa3 Nxc3 22. Rxb7+ Kc6 23. Rxe7 となります。)

2.4 12... Qb4 の変化

これがメインラインとして MCO(Modern Chess Openings) にも載っているラインです。以下 13. Qc2 Qc5 14. Bxh7 のように進み、白はポーンを取り返します。このラインで黒はイコアライズに成功するというのが一般的な評価です。なので、13. Qc2 Qc5 14. Qe2!のように白は工夫する必要があります。

そのあとは例えば 14... Qb6 15. a3 Nc5 16. Be3 Qd8 17. Bxh7!など(17... Rxh7 18. Bxc5 Bxc5 19. Qb5+ Bd7 20. Qxc5 となり、評価が難しい局面ですがポーンが多く残っていてマイナーピースがバッドビショップ対ナイトなので、Q と R をさばいてしまってマイナーピースだけの終盤にすれば白が面白く指せるはずです)。

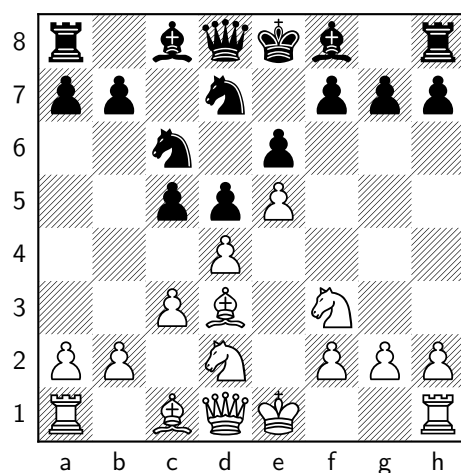
総じて Korchnoi Gambit は白が全体的に強い圧力を盤面全体にかけられる変化であり、研究しがいのある変化だと思います。

2.5 Anti-Korchnoi Gambit

Korchnoi Gambit は正しく指せば黒悪くはならないのですが、キャスリングが遅れる、全体的にスペースアドバンテージがない等、黒にも嫌な部分があります。

そのため黒から Korchnoi Gambit を避ける手も定跡化されています。d4 ポーンを取らず、キングサイドのポーンを突くことでキングサイドアタックを緩和するというのが主なプランになります。

1. e4 e6 2. d4 d5 3. Nd2 Nf6 4. e5 Nfd7 5. Bd3 c5 6. c3 Nc6 7. Ngf3!? で Korchnoi Gambit との境目になります。ここで 7... Qb6 8. O-O cxd4 とすれば Korchnoi Gambit のメインラインですが、d ポーンを取りにいかないことも黒は可能です。



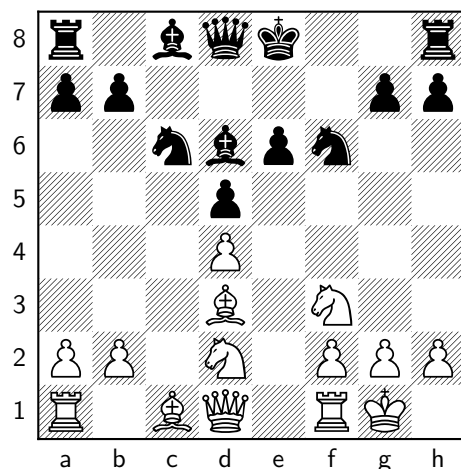
7. Ngf3!?まで

2.5.1 7... cxd4 8. cxd4 f6

Closed Tarrasch の 7. Ne2 メインラインと同じように進める場合。ちなみに、Mikhail Tal が 9. Ng5!? fxg5 10. Qh5+ g6 11. Bxg6+!?とやっていますが、成立しているかは微妙なところ。

実際、メインラインと同様に進めるとどうなるのか。以下で見えていきます。なお、本稿においては 7. Ngf3 から派生する局面を「7. Ngf3 型」、7. Ne2(Main Line) から派生する局面を「7. Ne2 型」と呼びます。

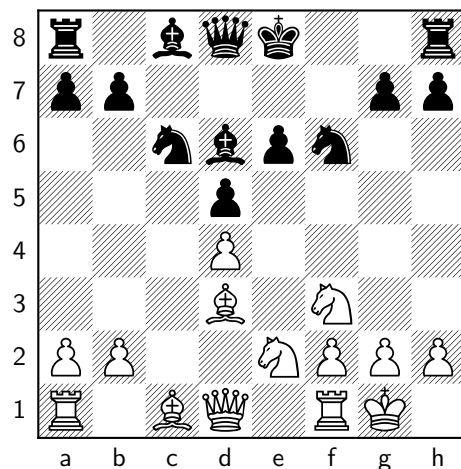
7... cxd4 8. cxd4 f6 9. exf6 Nxf6 10.O-O! Bd6 で下図。



Tarrasch Main Line では 10. Nf3 と指すところ、すでに f3 にナイトがいるので 10.O-O!とできます。

ここで、Tarrasch Main Line と比較してみましょう。少し長いですが、11. O-O まで下のとおりです。

1.e4 e6 2.d4 d5 3.Nd2 Nf6 4.e5 Nfd7 5.Bd3 c5 6.c3 Nc6 7.Ne2 cxd4 8.cxd4 f6 9.exf6 Nxf6 10.Nf3 Bd6 11.O-O



上 (7. Ngf3) と下 (7. Ne2) を比較すると、どうでしょうか。似た局面ですが、違いを理解してそれぞれ個別のプランに結び付けることが重要です。

違いは白ナイトの位置と手番ですね。

7. Ngf3 型は Nd2、7. Ne2 型は Ne2 にナイトがいます。そのため、7. Ngf3 型では e ファイルがハーフオープンになっていて、かつルークをすぐに敵陣に直射させられる陣形になっています。

加えて、手番は 7. Ngf3 型が白、7. Ne2 型が黒になっています。このことを考えると、7. Ngf3 型のほうが白は攻勢を取りやすいと言えるでしょう。

次に黒の陣形について考えます。黒の陣形としては、e6 ポーンが弱くなっているが、ハーフオープンになった f ファイルにルークを配備しつつキャスリングする手が可能です。そのため、黒も十分反撃はできるというでしょう。

上記の検討から、7. Ngf3 型では、11. Re1 と指し、黒の f ファイルからの反撃が来る前に e ポーンにプレッシャーをかけていくことが可能です。例えばそのあとは Nb3, Qe2 のような陣形を作り、e ポーンを狙って指せば白指しやすいでしょう。

逆に黒は、7. Ngf3 を相手にメインラインと同じ指し方をする際には、同じプランで指してはいけないということがわかると思います。

2.5.2 7... Be7 8. O-O g5!

割と意外性の高いプランです。というのは、ここで黒は、通常の French のラインではあまり採用されることがない、キングサイドにプレッシャーをかけるプランを選択しているからです。このプランは、全体的に非常な乱戦になります。GM Nakamura、GM Volkov が黒を持ってしばしば指すラインでもあります。

さて、この手に対する対策はどうするのがいいのでしょうか。

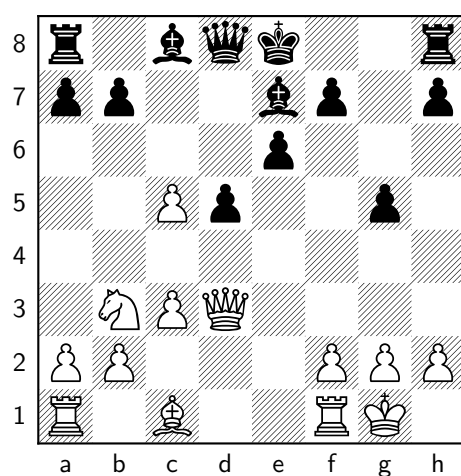
7... Be7 8. O-O g5! 9. dxc5

French では珍しく、白から c ポーンを取ります。白のセンターポーンは崩壊しますが、代わりに盤面全体にプレッシャーをかけることでバランスを取ります。

9... Ndx5 10. Nxe5 Nxe5 11. Nb3!

この場所に居座ったナイトが容易に取られないため、c5 のポーンも守られるというのが主張です。

11... Nxd3 12. Qxd3



この後は白は盤面全体の黒マスを抑えるために f4 突きを狙い、黒はそれを妨害する、というプランに沿って手順が進みます。なので 12... e5! が良い手。黒がダブルビショップを持っているのに対して白はナイト + ビショップを持っているため、白としてはなるべくクローズな局面にすることが肝要です。

French Tarrasch の 7. Ngf3 型は、鉾脈も多く残っている面白い戦型だと思います。French 対策として、十分考慮に値する定跡ではないでしょうか。

3 Sicilian, Najdorf, Scheveningen Formation

3.1 序論

Sicilian Defense の Najdorf Variation は極めて有名なオープニングで、1. e4 に対して勝ちに行くための黒の序盤として、トップ GM からクラブプレーヤーまで幅広く指されています。黒番で 1. e4 に対して Najdorf を指すプレーヤーは日本にも多いと思います。

定跡は極めて複雑ですが、黒としてはある意味では「目指すべき形」が明確であり、覚えやすい定跡ともいえると思います。

さて、Najdorf プレーヤーにとって必ず対策すべきなのが、6. Be3 (English Attack) でしょう。

GM Nunn や GM Short らの研究による、Dragon の Yugoslav Attack の攻め筋を Najdorf で使ったらどうなるか? という問いから始まった定跡ですが、Be3-f3-g4 とする攻めの形がわかりやすく、Najdorf 対策に English Attack を採用しているプレーヤーも多いと思います。

English Attack に対する黒の対策は、人それぞれだと思いますが、6... e5 が多いと思います。しかし私は 6... e6 に好感触を持っています。

本章では、黒の立場から、English Attack に対して 6... e6 を指す際に何を考えるか、どのように指していけばよいかを紹介したいと思います。

3.1.1 1923 Scheveningen 大会

Scheveningen(スヘフェニンゲン)とはオランダ、デン・ハーグのリゾート地の地名です。この地で 1923 年、チェスの大会が開かれました。この大会で、e6 と d6 にポーンを並べる、Scheveningen Variation が指されたといわれています (Maroczy-Euwe, 1923)。

この大会の後、徐々に Sicilian Defense において d6, e6 にポーンを並べる形が流行するようになります。

当時のよくある Scheveningen Variation は 1. e4 c5 2. Nf3 Nc6 3. d4 cxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 d6 6. Be2 e6 などのようにしてセンターにポーンを並べる形でした。これに対して白は e4, f4 にポーンを並べ、白マスビショップを Be2-Bf3 と使って戦っていました。

3.1.2 Keres Attack の登場 (1943)

Scheveningen Variation は、一定の評判を保っていましたが、そこに衝撃的な新手が現れます。

1943 年の Salzburg 大会で Keres が指した手で、現在では Keres Attack と呼ばれます。これは、1. e4 c5 2. Ne2(Nf3 でもいずれ同じです) d6 3. d4 cxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 e6 に対して 6. g4! と指す形です。

余談ですが、1943 年は独ソ戦の真っ最中です。ソ連のプレーヤーとして知られる Keres が、なぜ(現オーストリア領)ザルツブルクのトーナメントに出られたのか? と調べてみたところ、まずそもそも Keres はエストニアのプレーヤーであり、エストニアは 1941 年からドイツ占領下にあったそうです。ちなみに当時フランスにいた Alekhine もこのトーナメントに参加しています。

5... e6 によって c8 のビショップの効きが止まるためにこのポーン突きが可能になります。そしてすぐに g5 まで延び、f6 のナイトを脅かしつつキングサイドにプレッシャーをかけていきます。このように、キングサイドを押し上げるプランが、Scheveningen 型の Sicilian に対してこの後有効だと認識されていきます。

3.1.3 Najdorf Variation の登場 (1950 年代)

さて、その後 Sicilian の黒番でも、白番でも多くの新しいアイディアが生まれました。とりわけ最も重要なアイディアは、なんといっても 5... a6(Najdorf Variation) でしょう。この一見手待ちにしか見えない (Fischer でさえ、「60」の中で 5... a6 を「手待ち」と言っています) 手が、黒の b5 突きを準備し、白からの Ndb5 を防ぎ、ある変化においては黒が Ra7 と指せるようになるなど、極めて多くのアイディアを見据えた手として多くのプレーヤーに愛されるようになります。

3.1.4 English Attack の登場 (1980 年代)

Najdorf に対する白の対策も進化してきました。最初は 6. Be2 が多かったですが次第に 6. Bg5 が増え、1980 年代には 6. Be3(English Attack) も見られるようになりました。のちに Qd2 から O-O-O としてキングサイドを攻める手を見せつつ、クイーンサイドにも目を光らせ、6... e6 に対して 7. g4! の可能性も残した柔軟な手です。

3.1.5 Kasparov と Scheveningen Formation(1980 年代)

さて、若き Kasparov も黒番で Scheveningen を愛用するプレーヤーでした。Kasparov は若いころは、Scheveningen 型に組んでセンターを受けた後、a6, b5 としてクイーンサイドを押していくプランを採用し、黒番での勝ちを重ねていきました。Scheveningen 型が攻撃力を秘めているということを明らかにしたのは Kasparov といっていよいように思います。

一方、Kasparov のライバルとして知られた Karpov は、Keres Attack が大得意。Keres Attack は、白が主導権を握ることが多くなるため、a6, b5 のプランを黒が取ることは難しいです。面白いことに、Karpov-Kasparov で Keres Attack になった対局は 1 つしかないようです。お互いに相手の得意形を避けたということでしょうか？

Positional Player として知られる Karpov が Keres Attack が得意というのも面白い話ですが、Karpov の Positional Play は盤面全体に圧力をかけて相手の動きを奪うような指し方ということもできます。その意味では、Keres Attack からキングサイドのポーンを伸ばしていくプランは、ある意味では Karpov のブレースタイトルに合っているともいえるでしょう。

そこで、Kasparov は、いずれ後に必ず指すであろう a6 を先に指し、そこから e6, b5 と続ける指し方を採用しています。5... a6 に対して 6. g4??は指せないのです。

この指し方が Kasparov の専売特許かどうかは調べられませんでした、ここに至って、クイーンサイドアタックのための「Najdorf(5... a6) の Scheveningen Formation(6... e6)」はいったんの完成を見たと言えるでしょう。

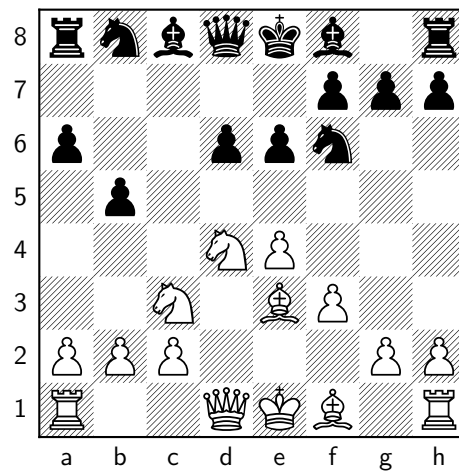
一方で白は、黒の手には関係なく English Attack Formation(Be3 - Qd2 - O-O-O) を取ることができます。これで、5... a6 6. Be3 e6 という手順の歴史が紐解けました。

3.2 局面のポイント

まずは、局面のポイントと白黒双方のテーマを考えていきたいと思います。

それではこの局面から。6. Be3 の English Attack 型を想定します。

1. e4 c5 2. Nf3 d6 3. d4 cxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 a6 6. Be3 e6 7. f3 b5



7... b5 まで

このようなポジションでよく出てくる手を考えていきます。英語では”Thematic”と呼ばれますが対応する日本語が思い当たらないです。将棋の解説だとよく「習いある手筋」と言ったりしますが、それに近いでしょうか。

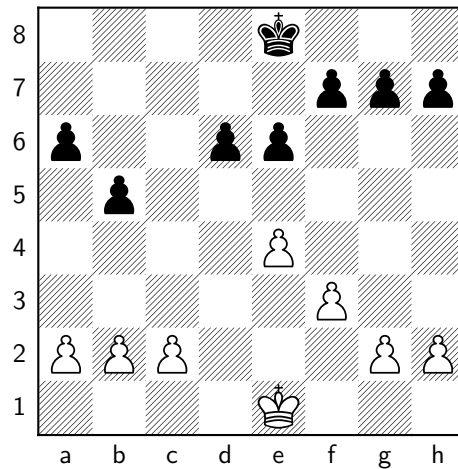
3.2.1 局面評価

手を考える際に、まずは局面の評価をしていきます。

1. 白のメリット：キングサイドに広いスペースが確保できる。駒の展開が早い。そのためキングサイドで攻勢を取れる。
2. 黒のメリット：クイーンサイドにスペースが確保できる。センターポーンが白より1つ多い。そのため白のサイドアタックに対してセンターから反撃できる。また、終盤になったときにポーン形が白よりも良い。

どちらにも主張がある局面です。どちらかという白にダイナミックな主張が多く、黒の主張はポジションの良さなどスタティックなものともいえるでしょう。

次にポーン形を見えます。



このポーン形から、ポーンの弱点を考えていきます。まず弱点に見えるのが、黒の d6 ポーンです。次に白の c2 ポーンも、セミオープンファイルにあるポーンとして弱点に見えます。が、この形ではしばしば、白は黒の b ポーンの伸びすぎ、あるいは e6 ポーンへのサクリファイスを狙い、黒は白の e4 ポーンが浮くのを狙う、というテーマが見られます。d6 と c2 のポーンは、かなり固く守られているので、少なくとも中盤では攻撃目標になることは少ないです。

3.2.2 白のテーマ

白のプランとしてまず考えられるのがキングサイドアタックです。ポーンを突いていき (ポーン・ストームといいます)、キャスリングした黒のキングを直接攻撃するプランです。どれだけ駒損してもチェックメイトすれば勝ちなので、白は駒を捨ててチェックメイトを狙いに行くこともあります。

センターからの攻撃は、English Attack ではあまり見られませんが、6. Bg5 Line ではよく見られます。

キングの周りの守り駒を除去する手として、**g4-g5-g6!**が一つのテーマです。**f3-f4-f5** もなくはないですが、あまり効果的ではないという印象です。一度 7. f3 と突いているのと、e4 ポーンが浮くのがやや白にとっては怖いでしょうか。

ポーン・ストームは、相手のポーンが自分のポーンよりも少ない時に非常に効果的です。そのため白はキングサイドの黒ポーンを減らす手があれば好ましい成果を得られます。

Nd4xe6!というテーマは、キングの守りを薄くする、展開が白のほうが早いのでピースサクリファイスしてもピースアクティビティで十分代償がある、黒のセンターポーンを減らせる可能性がある (センターからの反撃を弱める)、という意味で効果的なテーマです。

Bf1-h3!として e6 ポーンと、(ほとんどの場合)c8 にいるルークを狙うテーマもあります。

白の白マスビショップは **Bf1-d3** として h7 を狙うこともあります。

また別のサクリファイスとして、**Nc3-d5!**というテーマもあります。黒に e6xd5 とされても、e ファイルが開き、黒の主張の一つであるセンターポーンが崩れ、白はピースを捨てただけのポジショナルな代償があるとされることが多いです。(Be3 型よりも、Old Main Line 6. Bg5 によくあらわれます)

キングサイドのルークは h1 に置くほか、**Rh1-e1** というテーマもあります。黒がキャスリングを遅らせているときに特に有効です。Nc3-d5 と組み合わせられることもあります。

黒のクイーンサイドのポーン・ストームに対するディフェンスとしては、何もしない、**Nc3-e2**、**a2-a3(-a4)**、

O-O-O-Kc1-Kb1 などがあります。b2-b3 はだいたい失敗します。c2 と c3 が弱くなるのが、特にクイーンサイドにキャスリングした場合に致命的です。

面白い手としては **Nc3(Nd4)xb5!** と、こちらのポーンを取る手もあります。黒の反撃が効かなくなるため、黒がゆっくりしている場合には効果がある場合があります。

3.2.3 黒のテーマ

キングサイドのディフェンス、センターからの反撃、クイーンサイドからの反撃があります。

キングサイドのディフェンスは **Nf6-d7!** が良くある手です。キングサイドの焦土作戦で、攻めを空振りさせる意味です。

もちろん **h7-h6** もあります。ここで白の **g4-g5** に対して **h6-h5** と躲すこともできます。

白が **f4-f5** と攻めてきたときに **e6-e5!** と指せると、白の攻めが止まることがあります。

センターからの反撃では、**d6-d5!** がタイミングよく指せばほぼ互角でしょう。e6-e5 を指した後か、指す前かは局面によります。

Nd7-e5 という動きもあります。e5 にいるのはクイーンであることもあります。白は **f4** が付きづらいため (e4 が落ちやすくなる)、e5 のピースはしばらく居座れます。

白の e4 ポーンが落ちると、黒のセンターが強力で白は相当苦しい戦いになります。

Nd7-c5 や **Nd7-Nb6-Nc4** も面白い手です。c4 のマス黒が使うのが強力で、c4 で白ビショップ-黒ナイトの交換になるとある程度オープンな局面で黒にビショップが残る形になるので終盤で有利になります。

クイーンサイドの攻撃としては何といても **Ra8-Rc8-Rxc3!** でしょう。これに対し白が **bxc3** しかなければエクステンジダウンでも黒が相当優勢です。

Qd8-c7 もあります。**Qc7-a5** もあります。

b5-b4 もナイトを追い払う手としてよくあります。ただし b4 後の **Nc3-Nd5!** には注意するのと、c4 マスを使えなくなることがあるため注意が必要です。

a6-a5 もなくはないです。この場合 b5 の地点が若干弱くなるため、注意が必要。

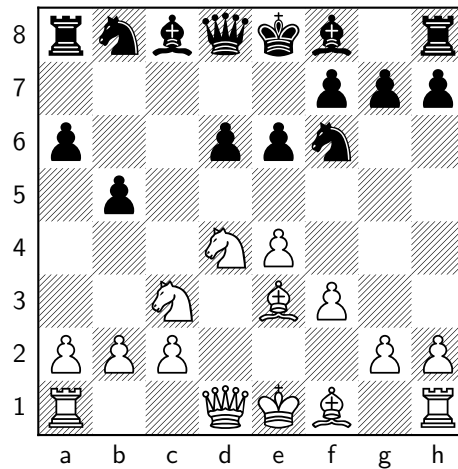
これを見ると、黒のクイーンサイドへのアタックはチェックメイトというよりもポジションを崩すことに主眼が置かれています。黒のアタックは a,b ポーンで相手の a,b,c ポーンを攻撃する、Minority Attack と呼ばれるアタックであり、このアタックのテーマは相手のポジションに弱点を作ることです。

これらのテーマを、現局面に当てはめて何が効果的かを考えながら組み合わせていくのが Najdorf の序盤-中盤の入り口だと思います。

3.3 6. Be3 e6 7. f3 b5

6. Be3 e6 7. f3 の English Attack 型のフォーメーションに対して 7... b5 は "provocative" と言われることの多い手です。

このラインを黒で指す GM は Vera Gonzalez, Van Wely, Gelfand などです。黒はキャスリングを遅らせ、クイーンサイドにプレッシャーをかけるプランを取るラインです。1. e4 c5 2. Nf3 d6 3. d4 cxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 a6 6. Be3 e6 7. f3 b5 Emms の本では 8. Qd2 と 8. b4 が主要なラインとして載っていました。



7... b5 まで

3.3.1 8. Qd2

8. Qd2 に対しては 8... Nbd7! が好手とのことです。さらに 9 手目で 2 つに分かれます (9. O-O-O と 9. g4)。

■3.3.1.1 8. Qd2 Nbd7 9. g4

8. Qd2 Nbd7 9. g4 Nb6 10. O-O-O Bb7

黒は Nc4 でのフォークで、ナイトをどちらかのビショップと交換することを目標に指しています。

11. Qf2

白は b6 のナイトにプレッシャーをかけます。この手ではなく、例えば Bd3 等であれば黒は 11... Rc8 とし
て十分なようです。

11... Nfd7

ここは白の手が広いところですが、黒は Rxc3 を狙いに戦うことになります。一例として

12. Bd3 Rc8 13. Nce2

ほかの手だと Rxc3 を食います。

13... Qc7

Nc5-Na4 という指し方を狙います。

14. Kb1 d5!

Najdorf でよく出てくる freeing move です。白からこれを取ると黒としては不満がない形になります。

15. e5! Qxe5

ポーンサクリフェイスをすることで、黒のキングを攻撃にさらします。

この後は手が広いところですが (16. Nxb5!? 等も可能) が、黒はポーン得と強いセンターという主張点を手に
入れたのでこの後はキャスリングを狙っていくのが理にかなっていると思います。

■3.3.1.2 8. Qd2 Nbd7 9. O-O-O

本当に微妙な違いですが、9... Nb6!? は似たようで違う形になります。

9... Nb6!? 10. Qf2! Nfd7 11. f4! Bb7 12. f5! +-

白が g ポーンを突いていると、白の f4 突きに対して Nf6 からの e4 と g4 ポーンへのアタックや、1 手速いことによってビショップが b7 にいるため黒からの b4 突きでの e4 の undermining などのタクティクスが黒に生まれますが、g ポーンを突いていないと f4-f5 突きが強烈です。

そのため、

9... Bb7

を先に指すことが必要です。ここで 10. g4 であれば 10... Nb6 として先のラインに戻せます。

多かれ少なかれ、白は Kb1, g4 などの手が必要なため、先のラインにトランスポートできるでしょう。

白がディフェンスを重視するラインもあります。

10. a3 Rc8 11. g4 Nb6 12. Nb3 Nfd7 13. Kb1 d5

黒は無理に攻めず、センターを交換するだけで満足するのが良いと思います。

3.3.2 8. g4

8. g4 に対しては 8... Nbd7? は悪手です。9. g5! で白が良くなります。

8. g4 h6! (8... Nfd7!? 9. Qd2 Nb6 10. O-O-O N8d7 11. Ndx b5! (Shirov) +=)

■3.3.2.1 8. g4 h6 9. Qd2

9... b4!

8. g4 h6 の形での黒のプランは基本的に、b4 を突いてナイトをどかしてから e5, d5 の順でポーンを突いていくことです。

10. Nce2 e5 11. Nf5 d5 12. O-O-O Be6

以下、黒は駒展開を進めれば悪くない形になります。

■3.3.2.2 8. g4 h6 9. h4

9... b4!

ポイントは同じです。

10. Nce2 e5 11. Nb3 d5 12. Ng3 Be6

11. Nf5 にも 11... Be6 で十分です。

13. Bd3 Nbd7 14. Qe2 a5

これでクイーンサイドのスペースを確保して黒十分、というのが Emms 本の主張ですが、黒のプランが見えづらい局面です。この局面でのプランニングは、今後の課題としたいと思います。

3.4 6. Be3 e6 7. g4!?

Sicilian の 5 手目の黒の分岐 (1. e4 c5 2. Nf3 d6 3. d4 Nxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 の後) で、5... e6 に対して 6. g4! が Keres の指した手で、Karpov が発展させた形で優秀である、という話を本章前半でしました。

これは、5... e6 によって g4 にビショップが効かなくなるので指せる手でした。

これを応用して、5... a6 6. Be3 e6 に対して 7. g4! が可能かどうか、ということが 5... a6, 6... e6 型のポイントになります。

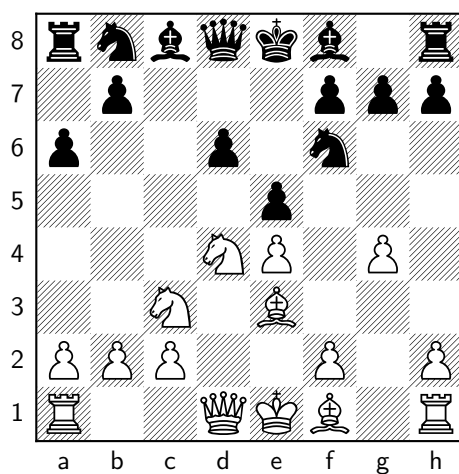
もし 7. g4!? で白が良ければ、5... a6 型 Scheveningen の成立にも関わる重要な形です。

7. g4!? を指す GM は何ととっても Shirov です。(面白いことに Semi-Slav の 7. g4!? という手にも、Shabalov-Shirov Gambit という名前が付いています)

では、見ていきましょう。

3.4.1 7. g4!? e5

7... e5 がメインラインと言われていますが、非常に難しいラインです。もちろん、g ポーンを取ろうとしている手です。黒がポーン得できるかが争点になります。



7... e5 まで

8. Nf5!

ナイトを f5 に飛ぶことで、g ポーンを取られることを防ぎます。

8... g6

ナイトに当てます。ナイトが動けば g ポーンが取られるため、

9. g5!

白は突っ張って指すしかありません。

9... gxf5! 10. exf5!

10. exf6? は、10... f4! が好手で黒が良くなります。

10... d5!

10... Nfd7 は 11. Qh5! など。

11. Qf3 d4!

ポーンフォークが入りますが、

12. O-O-O! Nbd7

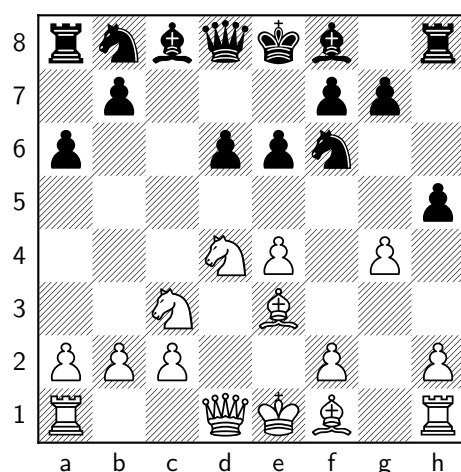
12. O-O-O! で切り返せます。この後は、Leko-Anand(2008) のゲームを追いましょう。

13. Bc4 Qc7 14. Bxd4! (おそらく Leko による、Sokolov の手 14. Bb3 の改良です) exd4 15. Rhe1+ Kd8 16. Rxd4 Bc5 17. Rdd1 Re8 18. gxf6 Rxe1 19. Rxe1 Nxf6 20. Rd1+ Bd7 21. Bxf7 Qxh2!? 22. Nd5 Rc8 23. Be6 Bxf2 24. c3 Rc7? 25. Nxf6! Qh6+ 26. Kb1 Qxf6 27. Qxf2

Ke8 28. Qg3 1-0

3.4.2 7. g4!? h5!?

Emms の本で推奨されているのはこの手です。g4 マスに駒の効きを足すのは 7... e5 と同じですが、7... e5 と違い一度突いたポーンをもう一度突く手ではありません。さらに Emms によれば、白が 1 手 Be3 に手を使っているため、黒からの Ng4 という手が有力になるとというのがこの手のもう一つのポイントです。



7... h5 まで

8. gxh5 も調べる必要がある変化ですが、黒は h5 ポーンを無理に取ろうとせず、9... b5! から駒展開を続けていけば自然な Najdorf らしい展開になります。よりクリティカルな 8. g5 についてみていきます。

8. g5 Ng4 9. Bc1

9. Bd2? Qb6! 10. f3 Nc6! で黒やや良しです。

9... Qb6

狙いは Nc6 と組み合わせて、f2 を狙うことです。

10. h3 Ne5 11. Be2 g6

これで白のキングサイドに対する攻撃が難しくなり、黒は駒の展開を続けられます。この後は Almasi-Judit Polgar(1996) 戦に従います。

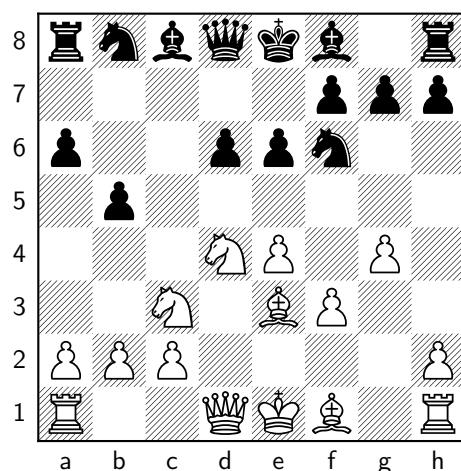
11... Nbc6 12.Nb3 g6 13.Be3 Qc7 14.f4 Nd7 15.Qd2 b5 16.O-O-O Bb7 17.Rhf1 Rc8 18.Bd3 Be7 19.Kb1 O-O 20.Ne2 Nb6 21.f5 Ne5 22.Bxb6 Qxb6 23.Nbd4 Nxd3 24.cxd3 e5 25.Nf3 b4 26.Rc1 a5 27.Nh4 d5 28.Rxc8 Rxc8 29.Ng3 Ba6 30.fxg6 fxg6 31.Nf3 Qe6 32.Rg1 d4 33.Nh4 b3 34.Qxa5 Bxd3+ 35.Ka1 Qc6 0-1

3.5 6. Be3 e6 7. f3 b5 8. g4 に対する Kasparov 新手 8... Nfd7 の動向

3.5.1 1. Kasparov 新手 8... Nfd7

Judit Polgar - Garry Kasparov, 2001, Cannes (Rapid)

1. e4 c5 2. Nf3 d6 3. d4 cxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 a6 6. Be3 e6 7. f3 b5 8. g4



8. g4 まで

8... Nfd7!?

Kasparov はこの手に「!?」を付けています。(Garry Kasparov on Garry Kasparov, Vol.3) よくある手としては 8... h6 です。8... Nfd7 は Kasparov が Anand との 2000 年のマッチで指した新手で、そのゲームはドローになっています。

9. Qd2 Nb6 10. O-O-O

白はすでに展開を完了していますが黒はナイトを展開しただけです。これだけ展開に差が付くと普通は白良しとしたものですが、白の駒に具体的な攻撃目標がないために黒はこれから展開を進めてもまだ間に合うという点でバランスが取れているかと思います。

なお、前述の Kasparov-Anand 戦では 10. a4 でした。

10... N8d7 11. Qf2!?

Kasparov はこの手に何もコメントを付けていませんが、後述するようにここでより良い手があると考えられます。

11... Bb7 12. Bd3 Rc8 13. Nce2 Nc5

まだ展開に差がありますが、黒が展開で追いついてきた印象もあります。

14. Kb1 Nba4

Najdorf で覚えておきたい手です。白の b3 を誘い、クイーンサイドを弱めます。

15. b3

このあたりは、どのように指しても複雑な戦いになります (Kasparov)。

15... Nxd3 16. cxd3 Nc5 17. Ng3

コンピュータによれば、この辺りはすでに黒良しとのこと。あとは長いので、省略しますが、黒がリードを保って勝ちました。

17... Be7 18. Qb2 b4 19. Nh5 Rg8 20. Ne2 g6 21. Nhf4 a5 22. d4 Nd7 23. d5 e5 24. Nd3 Ba6 25. Qd2 Bf6 26. Rc1 Bb5 27. g5 Bg7 28. Nb2 Ke7 29. f4 exf4 30. Bxf4 Qb6 31. Be3 Qa6 32. Nd4 Ne5 33. Rhd1 Bd7 34. Bf4 Rxc1+ 35. Rxc1 Rc8 36. Bxe5 Rxc1+ 37. Qxc1 Bxe5 38. Nc6+ Bxc6 39. dxc6 Qe2 40. c7 Bxb2 41. c8=Q Bxc1 42. Qb7+ Kf8 43. Kxc1 Qxh2 44. Qa8+ Kg7 45. Qxa5 Qf4+ 46. Kd1 Qxe4 47. Qd8 Qb1+ 48. Ke2 Qxa2+

49. Kf1 Qa1+ 50. Kg2 Qe5 0-1

さて、この手が成立するのであれば、8. g4 に対しても 8. Qd2 に対しても黒は同じ陣形で戦えます。キングサイドに手をかけない Nb6-Nd7-Bb7-Rc8 型は English Attack に対してかなり優秀な形であるため、白がこれを阻止するために早い 8. g4 を指していましたが、Kasparov の 8... Nfd7!? が成立するのであれば English Attack の根幹にかかわる可能性もあります。

さて、8. g4 Nfd7 に対する白の対策を出したのが 2001 年の Shirov です。

3.5.2 Shirov による反駁 11. Ndx b5(13. Ndx b5)

Alexei Shirov - Kiril Georgiev, 2002, FIDE Grand Prix

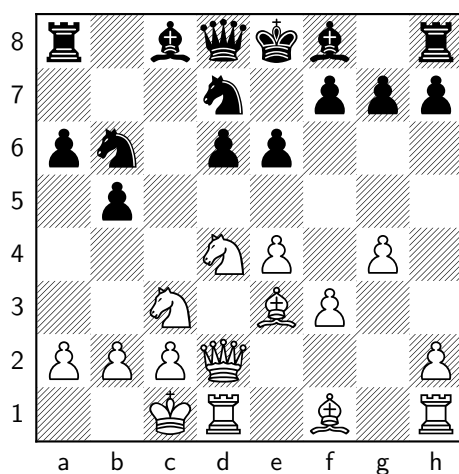
1. e4 c5 2. Nf3 d6 3. d4 cxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 a6 6. Be3 Ng4 7. Bc1 Nf6 8. f3 e6 9. Be3

本筋とはあまり関係がないため詳述を避けますが、6... Ng4(Anti-English) に対して 7. Bg5 と出る手と 7. Bc1 に引く手があります。後者は、このゲームのように黒が Nf6 に戻るため、白が手を変えない限り黒はドローにするという意図を持っています。

9... b5 10. g4 Nfd7

手数は 2 手多いですが、8... Nfd7 と同じ形になりました。

11. Qd2 Nb6 12. O-O-O N8d7



12. N8d7 まで

さて、Shirov 新手は。

13. Ndx b5!

いきなりのサクリファイスですが、黒の展開の遅れを突いた手です。この後はほぼ必然の進行です。

13... axb5 14. Nxb5! Ba6 (14... d5? 15. Qc3!! +-) 15. Nxd6 Bxd6 16. Qxd6

白はピースの代わりに 3 ポーンを得ており、主導権を握っており、次に 17. Bxb6 のスレットもあります。黒が白の主導権を弱めようとピースを返すと白はクイーンサイドにパスポーンができます。実戦的には白が相当勝ちやすいと思います。

16... Nc4 17. Bxc4 Bxc4 18. Qd4 Be2 19. Qxg7 Qf6?

ここで 19... Rf8 がのちの改良手ですが、白はその前に 18. a3!と改良手があり、この局面は白良しと考えられています。

20. Qxf6 Nxf6 21. Rde1 Bxf3 22. Rhf1 Bxg4 23. Bd4 Rxa2 24. Kb1 Ra8 25. Bxf6 Rg8 26. Re3 Kd7 27. b3 Kc6 28. Rf2 Bh5 29. Rd2 Rg1+ 30. Kb2 Rd1 31. Rxd1 Bxd1 32. c4 Rg8 33. Rg3 Rb8 34. e5 Rb7 35. Rd3 Be2 36. Rd6+ Kc7 37. Bd8+ Kb8 38. Bb6 Re7 39. Rd8+ Kb7 40. Bc5 Rc7 41. Bd6 Rc8 42. Rxc8 Kxc8 43. Be7 Kd7 44. Bf6 Kc6 45. Kc3 h5 46. b4 1-0

3.5.3 Ndx5 の成立条件

さて、Shirov のこの手 (Ndx5) は 8. g4 Nfd7 型でのみ成立する手でしょうか。

8. Qd2 Nbd7 9. g4 Nb6 型を見ていきましょう。

1. e4 c5 2. Nf3 d6 3. d4 cxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 a6 6. Be3 e6 7. f3 b5 8. Qd2 Nbd7 9. g4 Nb6 10. O-O-O Bb7!

10. N8d7 であれば同じ形になりますが、黒はここで 10... Bb7!とできます。白が 11. Qf2 として b6 のナイトを狙ってきたときに 11... N8d7 とするのが正しい順序です。

ここで 11. Ndx5 とするとどうなるか。

11. Ndx5?! axb5 12. Nxb5 d5! -+

d5 地点に効きが多いのと、Rc8 が可能 (13. Qc3? Rc8!) であるため、d ポーンが取られることはありません。Nb5-(Qc3)-Nc7 を含みにして、Nxd6 として 3 ポーンを取ることが可能であることが、Ndx5 が成立する条件になると考えられます。

微妙な手順前後により、手が成立するかどうかが変わる例でした。

3.6 10... Bb7 の成立可否

1. e4 c5 2. Nf3 d6 3. d4 cxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 a6 6. Be3 e6 7. f3 b5 8. g4 Nfd7 9. Qd2 Nb6 10. O-O-O

この変化は、手順が重要であることはこれまで述べてきたとおりです。8. Qd2 から 9. g4 と 8. g4 から 9. Qd2 で、全く異なった局面になります。そして、10... N8d7 が成立しないことは前の項で述べた通りです。

しかしながら、ここで 10... Bb7 が成立すれば、第 5 回でも書いたように、「8. Qd2 から 9. g4」でも「8. g4 から 9. Qd2」でも黒は同じ局面で戦うことができます。

そんなことが可能だろうか、というのが今回のテーマです。

10... Bb7 いかにも、黒は無理をしている陣形です。白がもし普通に 11. Qf2 と続けるのであれば 11... N8d7!で、黒は満足です。

ここで白には次の手があります。

11. Nb3!

これが素晴らしい手で、次に 12. Na5!として b7 のビショップ取りを狙います。黒は展開で遅れているうえにビショップペアを失うと、黒の戦略目標の一つであった「...d5 からセンターを開く」ことが、非常に危険になります。1999 年、Bologan の手です。

ここで初志貫徹の 11... N8d7 が 2002 年の Anand - Ponomarev 戦で Ponomarev によって指された手です。ただしこのゲームは、12. Na5 から Anand が快勝しました。

ここで、2つの手段があります。

3.6.1 11... Nc6

11... Nc6

12. Na5を防ぐためにはこうするしかありません。しかし、この時に b6 のナイトの守りに効いていないことに目を付けて、

12. Qf2

こう指すことができます。

12... Nd7

この局面は白良しです。黒 c6 のナイトに役割がありません。

3.6.2 11... b4!

あまり指されていませんがよりクリティカルなのは、11... b4!です。Hikaru Nakamura の手です。白にもここでいくつかの手段があります。

1. 12. Bxb6!?

2. 12. Nb1

12. Bxb6!? は、12... bxc3 13. Qe3 cxb2+ 14. Kb1 Qc8 のように続き、黒が b,c ファイルから圧力をかけられるでしょう。特に b ファイルが危険です。12. Nb1 がメインムーブです。

12. Nb1 Nc6 13. Qf2

先ほどと同様に進みますが、

13... Na4!

ここでこの手が可能です。こうなると c6 のナイトも b4 のポーンを支えており、悪い形ではないです。

さらに、このナイトはなかなか取られない (白 b3 を指すことが難しい) 上に、白キングにプレッシャーをかけている形になります。

まだこれからの勝負でしょう。

結論としては、

1. 8. g4 から 9. Qd2 の手順に対して 10... Bb7 として、Nb6-Nd7-Bb7-Rc8 型に組もうとする手に対しては 11. Nb3!があり、Na5 を見せられるため Nb6-Nd7-Bb7-Rc8 型には組めない。

2. ただし、11... b4!があり、黒も十分戦うことは可能な局面である。

ということになります。

3.7 実戦例

最後に、最近のゲームを2局載せ、本章を締めたいと思います。

3.7.1 Game 1: Morozevich A. - Vachier-Lagrave, M. (2009)

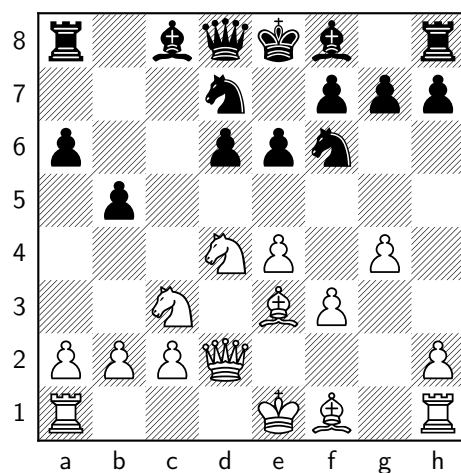
まずは、Mr.Najdorf との呼び声高いフランスの GM、Maxime Vachier-Lagrave(MVL) のゲームより。

MVL は 1. e4 に対してほぼいつも 1... c5 で返し、さらにオープンシシリアンに対しては Najdorf を指す

ことで有名です。結果として、MVL の全ゲームのうち 1 割弱が Najdorf です。

2009 年、白 Morozevich に対する MVL のゲームより。Biel GM トーナメントの 8R という大一番です。

1. e4 c5 2. Nf3 d6 3. d4 cxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 a6 6. f3 e6 7. Be3 b5 8. Qd2 Nbd7 9. g4



9. g4 まで

9... h6

MVL は 9... Nb6 も指しています。

10. O-O-O b4 11. Nce2 Qc7 12. h4 d5

タイミングよく...d5 を突け、黒悪くありません。

13. Nf4 e5 14. Nfe6!

並べてみるとわかりますが、何もないマスにナイトをサクリファイスしています。

14... fxe6 15. Nxe6 Qa5 16. exd5!

...Qxa2 を受けない！これで e6 にナイトを固定します。

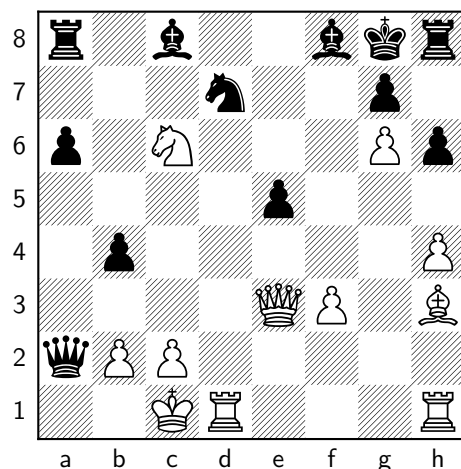
16... Qxa2 17. Qd3 Kf7 18. g5 Nxd5!

これで e6 のナイトを取り切ってしまうと白には駒損だけが残りますが……

19. Bh3 Nxe3 20. Nd8+!

2 ピースダウンで戦います。

20... Ke7 21. Nc6+ Kf7 22. g6+ Kg8 23. Qxe3



23. Qxe3 まで

霧が晴れました。黒はピースアップですが、両方のルークが働いておらず、クイーンも変な位置にいて、キングも安全ではありません。加えて d ファイルは白が支配しており、ピース損の代償は十分ある局面でしょう。

23...Bc5 24. Qe4 Nf8 25. Rd8 Bb7 26. Rxa8 Bxa8 27. h5 Rh7!!

キングの逃げ道を塞いでいるルークより、g6 のポーンのほうが価値が高いという判断はすごいと思います。確かに今のままだと、黒のルークは動けず、ナイトもバックランクメイトを防ぐために動きが制限されています。加えて白マスを守らないと Qc4+ 等からのメイトがあるため、クイーンとビショップの動きは気を付けないといけません。結果として、黒が自由に使えるのは黒マスビショップのみとなります。

それに比べればルークを 1 つ取られてエクスチェンジダウンになってもダブルビショップで戦えるという判断でしょう。

28. Re1!

白も取りません。

28... Bxc6 29. Qxc6 Bd4 30. Kd2 Qxb2 31. Qc4+ Kh8! 32. Kd3 a5

黒はここから、白の黒マスの弱さにつけ込んでいきます。31... Kh8! で h7 取りがチェックにならないのも大きなポイントで、h7 を取るとその瞬間に白がチェックメイトされる、という筋もいくつも出てきます。

33. Qc8 Qa3+ 34. Ke4 b3 35. cxb3 a4 36. Rb1 Qb4 37. Qc4 Qb7+ 38. Qd5 Qb4 39. Qc4 Qd2 40. Bg4 a3 41. Qf7 Qc2+ 42. Kd5 Qc5+ 43. Ke4 a2 44. Rc1 a1=Q 45. Rxc5 Bxc5

クイーンが世代交代しました。f8 のナイトの位置が素晴らしく、メイトスレットがあります。

46. Qd5 Qe1+ 47. Kd3 Qd1+ 48. Kc4 Qxd5+ 49. Kxd5 Ba3 50. Bf5 Kg8 51. Kxe5 Rh8 52. Kd5 Nh7 53. gxh7+ Kf7 54. Bg6+ Kf6 55. f4 Bc1 56. f5 Bd2 57. Kd6 Be1 58. Kd7 Bb4 59. Kc7 Ke5 60. Kd7 Ba3 61. Kc6 Kd4 62. Kc7 Kc3 63. Kd7 Kb4 64. Kd6 Kxb3+ 65. Kd5 Bb2 66. Kd6 Bf6 67. Kc5 Kc3 68. Kd6 Kd4 69. Kc6 Rd8 70. Kb6 Kd5 71. Kc7 Kc5 72. Bf7 g5 73. fxg6 Rd6 74. Be8 Be5 75. Kb7 Rb6+ 76. Kc8 Kd6 0-1

3.7.2 Game 2: Leko, P. - Shirov, A. (2012)

さて、MVL は English Attack(6... Be3) に対しては 6... Ng4, 6... e5, 6...e6 どれも指します。ただし、2013 年以降はもっぱら 6...e6 をやめ、6...Ng4 か 6...e5 に専念しているようです。

調べてみると、どうやら 6...e6 の、8. Qd2 Nbd7 9. g4 Nb6 のラインで、現在では 10. O-O-O ではなく 10. a4 とする手が強力と見られているようです。黒がキャスリングを遅らせるのに対抗して白もキャスリングを遅らせ、場合によっては O-O まで見せながら、黒のクイーンサイドの攻勢を受け流します。

私が参考になっている Emms 本が出た後 (2004 年以降) に流行りだしたラインなので、載っていないのも納得ですが、このラインについては改めて検証する必要があるでしょう。

黒も勝てないラインではなく、Shirov が黒番を持って勝っているゲームがあるので、それをご紹介します。

1. e4 c5 2. Nf3 d6 3. d4 cxd4 4. Nxd4 Nf6 5. Nc3 a6 6. Be3 e6 7. f3 b5 8. Qd2 Nbd7 9. g4 Nb6 10. a4

これが 10. O-O-O に代わって増えている手です。キャスリングして黒のアタックを正面から受けるよりも、いったん黒のクイーンサイドの動きを制限したうえでセンターから反撃するというプランです。黒は、次の手にあるように...Nc4 としながら b ファイルを開けて戦うようです。

10... Nc4 11. Bxc4 bxc4 12. a5 Bb7 13. Na4 d5

c4 のポーンを支えます。この形は b ファイルが開くので、ルークは b ファイルに回します。

14. g5 Nd7 15. O-O-O

やや危険なようにも見えます。白には驚くことに、O-O! というプランもあります。

15... dxe4 16. f4 Rb8 17. Qc3 Qe7 18. Nf5!

Najdorf の白番はナイトサクリファイスで主導権を白が握るゲームが多いですね。

18... exf5 19. Rxd7 Qxd7 20. Qe5+ Be7 21. Qxb8+ Qc8 22. Qe5 f6 23. gxf6 gxf6 24. Qd4 Qc6 25. Nc5 Bxc5 26. Qxc5 Qxc5 27. Bxc5 Rg8 28. Rg1 Rg4 29. Rxd7 fxd7

異色ビショップエンドイングになりましたが、ここからの Shirov の差し回しは参考になります。有名な Topalov-Shirov(1998) を思わせる指し回しです。黒は g ファイルにパスポーンを作れることと、e ファイルにパスポーンがあることを使って戦いますが、異色ビショップであるため、なるべく離れたファイルにパスポーンを作りたい形です。

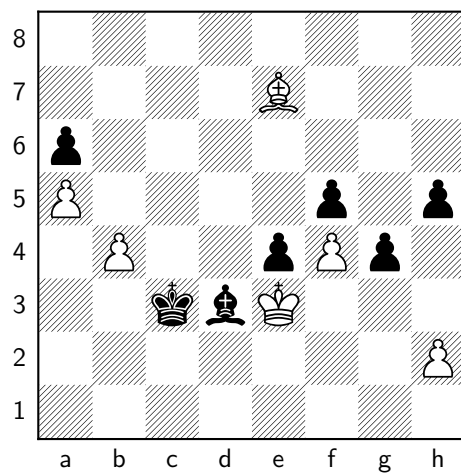
30. Kd2 Kd7 31. Bf2 Kc6 32. Ke3 Kd5 33. Bh4 f5 34. Bf6 Bc6 35. b4 cxb3 36. cxb3 h5
...h4 から...g3 を見せることで、キングとビショップの動きを制限します。加えて黒キングはクイーンサイドに向かい、弱い b ポーンを狙いに行きます。白ビショップは b ポーンを守り、黒キングの侵入を防ぐ必要があるうえに、...h4 を止めないといけないため、両方の仕事ができるマス (e7) にい続けなければいけません。

加えて白キングは、あまりクイーンサイドに寄りすぎると黒から...e3! があります。

また、b4 と突いてしまうと黒キングがクイーンサイドの白マスから侵入されるのを防ぐにはクイーンサイドに白キングが行くしかなく、キングサイドにコネクテッドパスポーンを作られて負けるため、b4 を突くと黒キングが侵入できます。

白はいずれ、指せる手がなくなります。

37. Be7 Be8 38. Kd2 Kd4 39. Bf6+ Kc5 40. Kc3 Bb5 41. Be7+ Kd5 42. Kd2 Bd3 43. Kc3 Bf1 44. Kd2 Kd4 45. Bf6+ Kc5 46. Be7+ Kb5 47. b4 Kc4 48. Ke1 Bd3 49. Kd2 Kb3 50. Ke3 Kc3



50... Kc3 まで

白はツークツワンクになりました。

51. Bh4 Kxb4

51. Bf8 等で b4 のポーンを守るのも、51... h4 52. b5 g3 53. h3 Bxb5 等で黒勝ちです。

52. Be1+ Kc5 53. Bh4 Bb5 54. Be1 Bd7 55. Bh4 Kb5 56. Be1 h4!

これで、当初の目的であった「離れたパスポーン (a ファイル、e ファイル)」を作れました。

57. Bxh4 Kxa5 58. Kd4 Kb5 59. Be7 a5 60. Kc3 Be6 61. Kd4 Bc4 62. Bh4 Bf1 63. Be7 Ka4 64. Kc3 e3 65. Bh4 Ka3 66. Kc2 a4 67. Be7+ Ka2 68. Bc5 e2 69. Bb4 a3 0-1